

事務事業 No./名称	■サービス部門 こども-01 児童福祉運営事業						
主管課	こどもみらい課	関連課	保育課・こども相談課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	児童の福祉、母子福祉及び心身障害児等の福祉に関することを調査審議するため、必要に応じて児童福祉審議会を開催する。						
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人			
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源 状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	1,198	2,238	176			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	1,198	2,238	176			
	人員配置数	1.0	1.0	1.0			
	人件費(千円)	9,274	9,709	9,534			
事務事業 運営経費	協働の パートナー						
	総事業費(千円)	10,472	11,947	9,710			
	市民1人当 りの経費(円)	59	68	55			
	対象者1人 当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退							

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。						
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。						
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止						
児童福祉運営事業	1,198千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	児童福祉審議会の運営と児童福祉事業に係る非常勤嘱託員の報酬の執行								
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)	
H22年度の課題	知的障害児通園施設「あおぞら園」の運営のあり方を検討するに当たり、児童福祉審議会を開催する予定であった。
課題解決のための取組	児童福祉審議会は開催しなかったが、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童等への福祉の充実を図るとともに、発達支援に関する総合的な検討を行うことを目的とした「鎌倉市特別な支援を必要とする児童等の発達を支援するためのサービス検討委員会」において審議を行った。
未解決の課題	
今後の方針	必要に応じて児童福祉審議会を開催し、その審議結果を参考に児童福祉を推進する。また、非常勤嘱託員の適正な配置に努める。
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止 ⇒ B ※ <input type="checkbox"/> 事業完了 課長名 こどもみらい課長 相澤 達彦

個別事業の概要

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果
児童福祉運営事業	主な個別事業	60 事務補助嘱託員報酬	1,008	1,008	■適切 □見直し余地あり
		60 非常勤嘱託員等費用弁償	98	94	■適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり